

+ 輸血情報

【輸血の実際 一手順とポイントー】

輸血にあたっての準備、手順、手技等をご紹介します。

また、輸血事故の防止・副作用の早期発見のためのポイントを示します。

担当医師は、輸血の実施について患者またはその家族に対する十分な説明をし、同意を得ておきます。

輸血前

ポイント：製剤の外観チェック・確認

1 患者、用具、製剤の準備をします。

患者	用具	輸血用血液製剤
<ul style="list-style-type: none"> 採血(血液型検査・交差適合試験) ※通常は事前に済ませておく 血圧、脈拍、呼吸、体温の測定など 	輸血セット・輸血フィルター(静脈針)、駆血帯、肘枕、消毒綿、絆創膏、点滴スタンド、生理食塩液など、(必要な場合、加温器)	<ul style="list-style-type: none"> 使用分を保管庫から取り出す 新鮮凍結血漿(FFP)の融解 外観チェック 表示事項の確認

※添付文書はよく読んでください。

輸血用血液製剤

●外観チェック

- | | | |
|-----|------|--------------------|
| ●色調 | ●不溶物 | ●血液バッグの破損(特にFFP)など |
| ・溶血 | ・凝血塊 | |
| ・変色 | ・凝固 | |

異常がみられた場合は使用せず血液センターにご連絡ください。

●FFPの融解

- 凍った状態のFFPは破損しやすいので、十分気をつけてください。
- FFPは30～37℃の恒温槽で融解します。融解後、混濁していることがありますが、これは献血者の食餌性のものであるため使用可能です。

●低温保存製剤の加温

通常の輸血では加温の必要はありません。ただし、急速大量輸血など特殊な場合は、低体温による副作用を防ぐため血液を体温に近い状態にしてから輸血します。血液の加温時には、過熱による溶血・蛋白変性を起こさないよう、厳重な温度管理が必要となります。

2 準備終了後、製剤の確認を複数の担当者で行います。

確認事項	
・患者氏名	・製造番号
・製剤名	・有効年月日
・単位数	・交差適合試験の結果
・血液型(ABO式・Rh式)	

3 患者に輸血を開始するにあたっての説明をします。

- 排尿を促します。
- 輸血中に異常を感じたら知らせるように話します。
- 患者からも氏名と血液型を聴取し確認します。

4 輸血セットを装着し、輸血を開始します。

■輸血セット装着の前に

・血液バッグを静かに動かし、内容物を混和させます。

※赤血球M・A・Pの場合は、マクロアグリゲートによる目詰まり防止のため、混和後血液バッグを横にするか逆さにしたまま約5分間静置します。

■輸血速度について

最初の10～15分間	1ml/分
その後	5ml/分

最初の10～15分間はゆっくり輸血します。その後、状態が落ち着いていたら通常の輸血速度で輸血します。

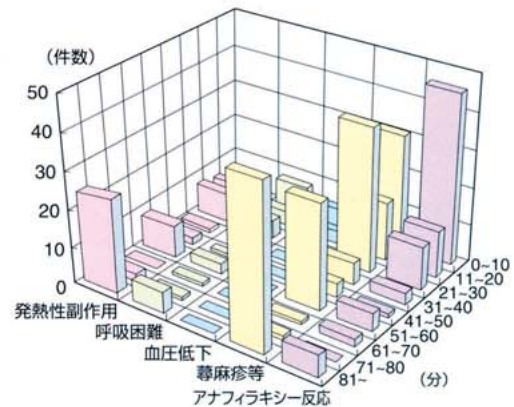
〔細い針やフィルターを通しての加圧・吸引により溶血することがありますので、ご注意ください。〕

最初の約5分間は患者のそばを離れずに観察し、その後も適宜観察します。

■赤十字血液センターに寄せられた非溶血性輸血副作用の発現時間（1995年）

重篤なものほど発現時間が早く、特にアナフィラキシー反応は、輸血開始から10分までに多く発現しています。

副作用が発現した時は直ちに輸血を中止すること（血管は確保しておく）。



5 輸血を終了します。

針を抜き安楽な姿勢をとらせませす。

遅発性副作用の原因究明のため、輸血前の患者血液と血液製剤のパイロット血液は2週間、4℃で保存しておきます。

記録

- ・輸血開始・終了時刻
- ・使用した製剤名と製造番号
- ・輸血量
- ・副作用の有無
- ・施行者名

後始末

使用済みの器具等は感染性廃棄物として処理します。

■参考文献

- 1) 苫米地 則子；輸血の準備と実施。臨床看護，20，104-108，1994.
- 2) 厚生省薬務局；輸血療法の適正化に関するガイドライン，1989.

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号
秀和芝パークビルB館14階

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いいたします。